

# 全国学力・学習状況調査について

## 1 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人一人が、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2 調査実施日

平成28年4月19日（火）

## 3 調査の対象

甲運小学校 第6学年  
実施児童数（53人）

## 4 調査の内容

### (1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

### (2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査を実施する。

### (3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査を実施する。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、正答率の±5%の範囲にある場合は、山梨県平均および全国平均とほぼ同等と考えています。

### 平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

#### 1 全体の傾向

##### 「A 区分問題」

・国語 A では、山梨平均、全国平均とほぼ同等ですが、やや上回っています。

##### 「B 区分問題」

・国語 B では、山梨平均とほぼ同等ですが、全国平均を上回っています。

#### 2 学力状況調査より

国語 A	特徴が見られた設問
<p><b>【漢字を書く】</b> 「漢字を読む・書く」では概ねできているが「省く」（読み）、「相談」（書き）の正答率が県・全国平均と比べて低い。</p> <p><b>【ローマ字を書く】</b> ローマ字を読むことは、全国平均よりも高く、よくできている。しかし、ローマ字を書く「あさって」では、全国平均より高い正答率であるものの半数近くの児童ができていない状況である。</p>	<p><b>【話す・聞く】</b> 「目的や意図に応じて、収集した情報を関係づけながら話し合うことができるかどうかをみる」での正答率が高い。</p> <p><b>【読む】</b> 「目的に応じて、図と表とを関係づけて読むことができるかどうかをみる」では、概ねできていた。しかし、「登場人物の人物像について複数の叙述を基にしてとらえることができるかどうかをみる」では、全国平均よりは高いものの、平均正答率が高いとはいえない。</p>

国語 B	特徴が見られた設問
<p><b>【話すこと・聞くこと】</b> 「質問の意図を捉えることができるかどうかをみる」では、全国平均とほぼ同じであるが、県平均をやや下回っている。</p> <p><b>【書くこと】</b> 「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くことができるかどうかをみる」では、県、全国平均よりも低く課題がある。</p>	<p><b>【読むこと】</b> 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかをみる」では、全国平均より低く課題がある。</p> <p>「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことができるかどうかをみる」は、全国平均より高く、よくできている。</p>

### 3 学習状況調査より

質 問 事 項	本校	全国	10 %○ 5 %◇	差
国語の勉強は好きですか	56.6	58.3		-1.7
国語の勉強は大切だと思いますか	88.7	91.3		-2.6
国語の授業の内容はよく分かりますか	88.7	80.7	◇	8
読書は好きですか	71.7	74.6		-2.9
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.5	89.2		1.3
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	73.6	67	◇	6.6
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	69.8	62.3	◇	7.5
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	81.1	74	◇	7.1
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	83	78.1		4.9
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたか （「最後まで解答を書こうと努力した」の割合）	92.5	95.6		1.8

- 「国語の授業内容を理解している」と答えている児童の割合が全国に比べて高かった。また、その他の質問に対しても国語の学習に対して肯定的に捉えている児童の割合が高いという結果が出ており、この傾向は学力調査の結果にも反映されている。校内研究等を通して、日頃の授業改善に取り組んでいる成果が表れているのではないかと考える。
- 文章を書く活動に対して抵抗を感じている児童の割合が少ない。日常的に自分の気持ちを表現する活動を各教科の授業に取り入れていることの成果であると考え。
- 理解度は高かったが、「楽しい」と答えている児童の割合は全国に比べてやや低かった。苦手を感じている児童に対してどのように働き掛けていくかが今後の課題になるのではないかと捉えている。

## 平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

### 「A 区分問題」

- ・算数 A では、全国平均とほぼ同等ですが、全国平均をやや下回っています。

### 「B 区分問題」

- ・算数 B では、全国平均とほぼ同等ですが、県平均をやや上回っています。

## 2 学力状況調査より

算数 A	特 徴 が 見 ら れ た 設 問
<p><b>【数と計算】</b> 「除数と被除数に同じ数をかけて（小数）÷（小数）を（整数）÷（整数）に置き換えても、商は変わらないことを理解しているかどうかをみる」では、全国平均より低く課題がある。 「数の大小関係を理解しているかどうかをみる」では、全国平均よりも高く、ほぼ全員の児童が理解できている。</p> <p><b>【量と測定】</b> 「三角形の底辺と高さの関係について理解しているかどうかをみる」は、県平均より低く、課題がある。</p>	<p><b>【図形】</b> 「図形の構成要素に着目して、図形を構成することができるかどうかをみる」と「直方体における面と面の位置関係を理解しているかどうかをみる」では、県、全国平均よりやや低い。</p> <p><b>【数量関係】</b> 「1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる」では、全国平均より高いが、課題がある。</p>

算数 B	特 徴 が 見 ら れ た 設 問
<p><b>【数と計算】</b> 「示された式の中の数値の意味を、他の数値や演算と関連付けて解釈し、それを言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」では、全国平均とほぼ同じであるが、課題がある。</p> <p><b>【量と測定】</b> 「示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することができるかどうかをみる」では、県、全国平均よりやや低く課題がある。</p>	<p><b>【数量関係】</b> 「示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができる事柄とできない事柄を特定することができるかどうかをみる」では、全国平均より高く、できている。</p> <p><b>【図形】</b> 「図形を構成する角の大きさを基に、示された四角形を並べてできる形を判断することができるかどうかをみる」では、全国平均よりも低く課題がある。</p>

### 3 学習状況調査より

質 問 事 項	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	75.5	66	◇	9.5
算数の勉強は大切だと思いますか	86.8	91.9		-5.1
算数の授業の内容はよく分かりますか	88.7	80.2		-3.2
算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか	77.4	75.8		1.6
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	79.2	81		-1.8
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	75.5	67.4	◇	8.1
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	83.1	89.9		-6.8
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考えますか	90.6	80.5	○	10.1
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	84.9	80.8		4.1
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	92.5	84.8	◇	7.7
今回の算数の問題について、言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	94.3	96.6		-2.3

○算数の授業に対して肯定的な印象をもっている児童の割合が全国に比べて高いことが、いくつかの質問から読み取ることができる。特に様々な解法を検討する習慣が、日常の授業を通して児童の中に根付いているのではないかと考える。

○算数の学習で学んだことを実際の生活の中でどう生かしていくか、また将来どんな場面で必要になっていくかという点について、児童に意識させる手立てを考えていく必要がある。

○授業の中で意識している「基礎基本の定着」という点については、指導の成果が出ているように考えている。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（「児童質問紙」より）

学習や学校生活に関する質問を4つの選択肢から最も近い回答を選ぶ形で実施。全部で62問。本校児童の結果と全国の結果を比較した上で、特徴的な傾向が見られる項目は以下の通りである。

設問内容種別	本校の状況	本校<本校回答率/全国回答率>
【家庭生活の様子】	<p>○自己肯定感をもつ児童の割合が高い。</p> <p>○携帯電話、スマートフォンを使って通話やメール、インターネットをする児童が多い。</p>	<p>○自分には、よいところがあると思いますか 当てはまる どちらかといえば当てはまる 88.7 / 76.3</p> <p>○普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか 30分以上 71.7 / 61</p>
【家庭学習の様子】	<p>○よりいっそうの家庭での学習時間の確保が望まれる。</p> <p>○学校図書館や地域の図書館を積極的に利用している児童が多い。</p>	<p>○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか 1時間以上の児童の割合 58.5 / 62.5</p> <p>○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか 月に1～3回以上行く児童の割合 61.7 / 40.3</p>
【学校での学習の様子】	<p>○学級会などでの話し合い活動が積極的に行われている。</p> <p>○総合的な学習の時間の内容が工夫されていて、児童のニーズに合っている。</p>	<p>○あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級の決まりなどを決めていると思いますか そう思う 54.7 / 39.6</p> <p>○「総合的な学習の時間」は好きですか 好き どちらかといえば好き 90.6 / 77.2</p>

	<p>○ノートの書き方については、今後の指導が必要である。</p> <p>○作文などの比較的長い文章を書くことに対して苦手意識をもっている児童が少ない。</p>	<p>○5年生までの授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思いますか 書いていた どちらかといえば書いていた 73.5 / 87.9</p> <p>○原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか 思う どちらかといえば思う 37.8 / 60.4</p>
--	--	--

### 本校の取り組み

#### ◎これまでの取り組み

- ・週3回行っている朝学習については、昨年度から全校体制で検討を行い、授業や家庭学習と関連させる中で、15分という短時間の活動をいかにしてより充実させていくかについて取り組んできた。その結果、少しずつ成果が出てきている。
- ・各学年ごとに授業の改善を目指して研究を進めている。さらに各自が取り組む研究教科以外にも、情報交換を行う中で指導力の向上を図っている。
- ・「児童同士の学びあい」の成立を意図した授業内での意見交流場面を積極的に設定している。本調査におけるアンケートの結果から、話し合い活動に対する満足度が高い結果を見て取ることができ、成果を実感することができた。
- ・日常の学校の様子を広く保護者、地域の方に公開する学校開放を積極的に行い、その際いただいた意見を日々の教育に生かしている。
- ・全国学力学習状況調査の結果についての学習会を校内研究の時間を利用して行い、いかにして授業に反映させていくかを全職員で検討し、実践している。

#### ◎これからの取り組み

- ・上記の取り組みを今後も継続し、更に確かな形にして児童に還元していきたい。
- ・学力・学習状況調査の結果から本校の児童がやや苦手としていると思われる算数の知識を問われる種類の問題について改善を図るため、定期的に過去に学習した内容の復習を行うなどの手立てを考えていきたい。
- ・ノートの取り方については、担任がそれぞれの方法で指導をしているところであるが、今後はより効果的な手法を共有できるようにする機会を設けていきたい。
- ・図書館の活用を一層進め、読書活動の活性化を図っていく。その際には、学校図書館の学習利用という視点をしっかり意識して各教科の授業の中で積極的に活用する場面を設定するようにしていく。